



寺だより

平成30年 極樂寺 12月号



修正会のごあんない

修正会とは、正月に一年の安寧を願って勤める法要です。新しい一年への思いや決意を極樂寺の阿彌陀仏さまの前にて、念仏し、お伝え申しましょう。心よりお待ち申し上げます。

お知らせ

五重相伝会のごあんない

第12回五重相伝会は、平成31年1月13日(日)から1月17日(木)の5日間です。
(費用は昼食代(おやつ含む)として1日1000円です)



平成31年1月1日(火)
午後1時30分(法要初念仏)
2時(初説法)
副住職 伊藤良成 上人

今回は、平成最後の五重相伝会です。今度こそはと思う方々は、ぜひ思いきってお越し下さい。心よりお待ち申し上げます。

法然さまのお歌に

生けらば念仏の功うつもり死なば浄土にまいりなん
とてもかくてもこの身にはおもいわずろう事ぞなき

現代語訳

生きている間はお念仏をとらえてその功德が積もり、命尽きたならば

お浄土に参らせていただけるのだ—(そう、信を固めたならば)生きるにも死ぬにも、もはやこの身にはあれこれ思い煩うことなどなくなってしまうことなのです。

人間にとって一番恐ろしいもの—それは「死」でしょう。その大きな理由は、自身で経験できないことだから、つまり後戻りできないとわかっていることだから、でしょう。

お念仏の教えでは、「この世」での命の終わりのときを「死」とは言いません。「往生」と言います。「往」は行く、「生」は「生まれる」です。「生き、生まれる」のです。

どこに「行く」? どこに「生まれる」? それは阿彌陀如来の、そして先立った親しい方々の待つ、極樂浄土。「もろもろの苦しみあることなく、ただもろもろの楽しみのみを受く。故に極樂と名づく」お経ではそう教えています。この世と極樂と、住むところは変わっても、生前に結ばれた縁が断ち切れることはありません。

「この世での生」から「極樂での生」へ。「死」は「終わり」ではありません。「あらたないのち」のスタートです。どうかお檀家の皆さまの信心が、日々のお念仏のなかに、より深まりますように。そして、今の「生」が、より輝かしいものとなりますように願って居ります。

年末にあたりこの一年間菩提寺に、ご支援、ご協力を賜りましたこと誠に有難く厚く御礼申し上げます。

来年も相変わらずよろしくお願い申し上げます

お寺からのご案内やお知らせが届きます様に
新住所に変わりましたら、恐れ入りますが
お寺まで必ずお知らせお願い申し上げます。
(電話・FAX・ハガキ等でお願ひします。)

極樂寺本堂で通夜・葬儀の時使用いたしますパソコン(香典用ソフト)をそなえて居りご利用できますのでどうぞご安心下さい。

お焚きあげ前の準備をいたします



お十夜法要の様子です。心配して居りました雨もやんでおごそかに、又楽しく一日を過ごすことが出来ました。御参堂ありがとうございました。



この度詠唱を檀信徒の皆様と一緒に楽しく(お茶会も含む)お唱え

したいなあ—と思い先月詠唱教司検定試験を京都の大本山知恩寺にて受けました所合格認定証を頂きました。

(入生の中で一番勉強したかな?)

御詠歌に心よせておられる方と一緒に練習をいそみたく思っています。又詠唱をお唱えする中で、お念仏のご縁を深めて参りたいと思います。どうぞお気軽にお越し下さいませ。心よりお待ち申し上げます。

認定証

伊藤洋子

三級詠唱教司

平成三十年十月三十日

浄土門主 願譽唯眞

